

第4回吹田市市民自治推進委員会 会議録

1 日時

令和4年(2022年)7月12日(火)午後6時から午後7時30分まで

2 場所

吹田市役所 中層棟4階 全員協議会室

3 出席者

(1) 委員

片上 孝洋(委員長)、梶原 晶(副委員長)、奥谷 義信、金井 隆典、中川 玲夢、
中野 里美、登るみ子、柳田康人

(2) 事務局

市民自治推進室 高島室長、加樂主幹、河野主査

4 傍聴者

0名

5 議題

(1) 令和4年度市民自治推進委員会のスケジュールについて

(2) シンポジウムについて

(3) その他

6 資料

(1) 令和4年度 市民自治推進委員会スケジュール(案)

(2) シンポジウム概要(案)

【参考資料】

吹田市自治基本条例見直しに関する意見書

市民自治講演会開催報告(令和元年度)

吹田市における自治体DX推進

7 会議の決定事項

議論の内容を踏まえ、令和4年11月7日(月)又は14日(月)、午後からシンポジウムを開催する。

8 議事の要旨

別紙「議事のまとめ」のとおり

9 次回の予定

(1) 日時 令和4年11月14日(月)シンポジウム終了後

(2) 場所 千里市民センター

議事のまとめ

発言者	主な内容
委員長	第4回吹田市市民自治推進委員会を開会いたします。 最初に、令和4年度市民自治推進委員会のスケジュールについて、事務局から資料の説明をお願いいたします。
事務局	(資料説明)
委員長	シンポジウムについて議論したいと思います。テーマは、DX時代の市民自治についてです。DX時代にふさわしい市民自治のあり方やシンポジウムで取り上げてほしいことなど、ご意見をお出しいただきたいと思います。
副委員長	配付された資料によると、基本的に市がDXで進めようとしていることは、窓口業務などの簡素化で、手続き上の効率化が結構多い印象を受けました。 この審議会で議論しているのは市民参画であり、窓口業務などの簡素化とは異なります。市民参画の部分で、デジタルトランスフォーメーション(DX)がどのように関わりがあるのか、また、どういった点が検討できるのかを議論しておいたほうがいいと思います。
事務局	シンポジウムで話していただく講師からは、先進事例をできるだけ紹介したいとお聞きしております。 他市の事例を調べてみますと、メタバースというバーチャル技術を利用して、引きこもりの方の就労支援につなげようとする取組もございますし、まちづくりなどの開発分野では、今までの図面だけではなく、新しいまちを仮想空間で疑似体験をしていただいた上で、意見を聞くこともできるようになり、市民参画の新しい一つの手段になるのかと思っています。 本日は、シンポジウムで講師に話してほしいことやディスカッションで話題に入れてほしいことなど、ご意見を講師にお伝えいたしますので、忌憚なくおっしゃってください。
A委員	講師の経歴、何を専門としているのかを書面で示していただきたかったです。そして、資料の中で令和3年度の主な実施状況及び実績がありますが、情報政策室が考えている令和4年度の取組を知りたいです。市の業務、施策というのは、ものすごく広範囲に渡っているため、DXに該当する業務があるのか示していただければ、シンポジウムで話しやすいのではないかと思います。 令和元年度の市民自治講演会で、講師が、『話し合いや市民の参加や透明化をどう進めるのかというのは非常に大事である。』と話されていました。これを受けて、3年経過する中で、どこまで推進されようとしているのか、また、自治会の加入者、今5割を切っている中で今後どうしていくのか。以前は、補助金を出しているという話をしていましたが、それでは自治会の加入の促進に繋がらないと思います。だから、その部分も市民の参加や透明化をどうするかと連動してくる。そこを考えた方がいいと思います。
事務局	本日、用意しております吹田市における自治体DX推進という資料については、私ども職員が庁内のシステムとして業務上処理をするシステム、あるいは住民サービスとして提供している業務のDX化、それをどういったスケジュールで進めようとしているのかの概略を示したものです。目指している姿はペーパーレス、キャッシュレス、サステナブルで、市役所に来なくても手続きが完結する市役所というのが端的に言い表される市役所像です。業務のどういったものにDXを図れるか、あるいはDXを図ることで、今後の住民サービスが、より適切なものになっていくかについて、私どもは、豊富にアイデアを持っているわけではありません。シンポジウムを通じて、私どもも気づかせていただければありがたいと思いますし、ぜひ

	業務にも反映をさせていければと考えております。 それから、吹田市の総合計画では、成果指標の一つとして自治会の加入率60%が設定されて、自治会担当からすると非常にハードルの高い目標設定になっております。市民の活動は、必ずしもその地縁に基づく自治会の活動だけではありません。自治会に入っていないから、住民同士が繋がっていないということではない、といった視点も今後は必要になります。議論はしつつありますが、なかなかそれを具体的目標、あるいは指標として、設定し切るところまでは至っていないというのが、正直なところでございます。資料の不足については大変申し訳ございませんでした。講師の方のご経歴についても、よく掌握いただけるように、口頭ではなく書面でご用意させていただきたく思いました。
A委員	これからは、自治会に依拠するような施策は違うと思います。特に若い層、お母さん方含めて、自治会に入らないと市民として不利益があるとは思っていませんので、自治会の加入率目標60%だけにこだわるのではなく、今の若い人に合った施策となるように方向転換が必要です。その中で、どういう業務がこのDXを活用すれば実現するのか。行政の中で、法律、条例、規則などの縛りがあるから、できませんと言ったら何もできない。吹田市における自治体DX推進が、看板だけと思われないようにした方がいいと思います。
事務局	令和4年度のDXの取組についても、ペーパーレス化、キャッシュレス化の促進という範囲にとどまっております。例えば引っ越し時の手続きのワンストップ化や職員のテレワークシステムの導入、各施設の使用料のキャッシュレス決済を進めるなどの内容で、個々の分野のDXを使った取組というところには、まだ至っていません。このシンポジウムで、講師から、福祉や介護などの事例を幅広く紹介するとおっしゃっていただいていますので、幅広い分野の行政担当職員に来ていただいて、何かヒントになるものを持って帰り、予算化にもつながればと考えております。
委員長	電子申請、キャッシュレスといった点から見ると合理化と効率化には向かうが、窓口で申請しなくてもいい、窓口に来なくてもお支払いができるといったことを考えると、逆に市民を遠ざける可能性が出てくると思います。見方によってはDXを推進することで、ペーパーレス化、キャッシュレス化は進むが、窓口に来ることができない人に対して、このDXの技術をどういうふうに活かすのかを考えないといけないし、コロナになってからICTが進み、Zoomなどの双方向型アプリを使えば、対面で同時に議論ができる。それがあってもかかわらず、新たにこのDXやメタバースを導入することで、キャッシュレスやペーパーレス以外に何がどういうふうになるのかについても講師にお話していただければ、私たちの方でも理解できるのかなというふうに考えております。
A委員	たまたま昨日、高齢者が、コンビニでマイナンバーを使って住民票か戸籍謄本かの手続きをしていたが、ものすごい時間がかかっていた。高齢者にとって、デジタル化が進むことが、本当にプラスなのかなと思います。高齢者も望むような施策の部分について、議論はされていないと言えるので、講師にお聞かせいただけたらありがたいと思います。
副委員長	あと、いいことばかりじゃない可能性があって、リスクなど、あると思うんです。先日、尼崎で起こった、個人情報の流出。そういうこともあるでしょうし、情報弱者やデジタル機器を使いこなせない人が、なおさら市役所との距離が開いてしまう可能性もある。実は便利になる一方で、おそらく、いろいろ予測される課題も講師には話してもらいたいと思いました。
B委員	行政サービスの効率化と、我々が議論しなければならない市民参画というのは、別問題と感じました。行政サービスの効率化は、もうどんどん進めていかないといけないもので、働いている者にとって行政サービスを平日に受けることは、なかなか難しいので、効率化は必

	要。その中で、市民の意見をいかに市政に反映させるのか、実際に市民が望むまちについての意見を反映させるためのDXを考えなければいけない。行政手続きの効率化ばかりを議論するのは少し的外れなのかなというような感じがしました。もう一つが、吹田市の大学に通っていて、住まいは吹田市ではないですが、私が住んでいる自治体と吹田市を比べた時に、吹田市に欠点があるのかは、具体的にわかりません。電子サービスを利用して予約しますが、あまり使われていない、知られていないのかなと感じています。パブリックコメントも同じ電子システムの中で、要望があれば、書き込める状態になって、市民がいかにこのDXを活用し、浸透させていくかについても議論が必要で、講師には、市民がDXに適應することなども講演していただけると、具体的に市民としてはわかりやすいのかなと感じました。
委員長	様々なコミュニティで起こる課題や取組について、DXの技術を使って解決していくことができるのかどうかを、皆さんはお聞きしたいんだと思いました。このままマイナンバーカードが普及すれば、電子決済や電子申請に向かうことは、ほとんどの方が想像つくと思うが、行政の窓口からさらに遠くなり、今でも、社会的弱者からすると窓口に行くのも、ちょっと一苦労だが、DXが進めば効率は良くなる。一方で、使えない人もいる。そういった人たちに手を差し伸べるためにDXが効率化、合理化の電子手続き以外に活用できることはあるのだろうか。DXで、できることとできないことを話していただければ、市民の皆様は、こういった使い道があって、将来こういうふうに向かうんだということを理解していただけたらと思っていますので、そういった点も講師にお話していただければと思っています。
C委員	自治会運営、自治会に参加するときに、DXがあったら便利と思うことがあります。例えば、自治会の回覧のシステムはLINEでいいと思うが、LINEを使っていない、お年寄りにはどうしたらいいかという問題がある。講師に教えていただきたいと思います。そして、DX、LINE、メールなどを安易に使うと、個人情報漏えいしてしまうかもといった、漠然とした不安があるので、安全にDXを活用する方法を知りたいです。 最後に知りたいのは、ペーパーレスと最初に聞いて、真っ先に浮かぶのは、『市報すいた』です。『市報すいた』のペーパーレス化をすれば、読者が増えるのではないかと感じることがあります。問題もあります。今までは、紙が届くから読めていたのに、メールで添付して送る方法に変更すれば、読めない人が増えてしまうなどの問題もあります。しかし、リスクやマイナス面も含めて、市の職員には考えてもらいたい。今回のシンポジウムは、職員研修も兼ねているとのことですが、職員は何人来られるのかをお聞きしたい。
事務局	ほとんどの職員が、市民への伝達手段として、一番はホームページよりも『市報すいた』と考えていると思います。ペーパーレス化して、メール等でご覧になっていただくとのことですが、やはり、まだ紙で見たい方はたくさんおられます。メールでの配信は、まだ先の話と思っています。 シンポジウムの職員参加については、人事室とも連携しながら、できるだけ多くの職員に参加していただくように働きかけたいと思います。
B委員	『市報すいた』について、委員の発言と市の発言の両方ともよくわかるなと思いました。私は『市報すいた』に載っている内容は、Twitterで見ても、市政がどうなっているのか、こういったイベントがあるのかを知っています。完全に『市報すいた』という形で情報提供はされていないのかもしれませんが、ある程度、情報公開が進んでいると感じています。ペーパーレスに関しては、後藤市長が一番熱心に取り組まれていることだと思うので、私はそこについては一定の評価をしています。しかし、Twitterを通して見ているにもかかわらず、大学にパン

	フレット等を置いていくため、同じものを2、3冊持つこととなり、これはペーパーレスとしては問題だろうと思います。非効率で、環境負荷にもなります。DXと紙媒体、従来のアナログの方式をいかに両立させるかっていうことと、全市民がDXを活用し、浸透するために、何をしていけばいいのかを具体的に考えないといけないと感じました。
D委員	シンポジウムで業務における行政サービスのDX化と、市民参加・参画・協働におけるDXの利用は、分けて、きちんと議論をしないといけないと思います。つまり、業務における行政サービスのDX化の主眼は、効率化や省エネ化になる一方で、それが市民参画や協働にとっては都合が悪い場合も出てくると思います。個人的には、吹田市市民自治推進委員会が関わるシンポジウムなので、業務や行政サービスのDX化は扱わなくてもいいと思っています。しかし、そういうわけにもいかないでしょうから、両方を議論するにしても、きちんと分けて、議論した方がいいと思います。
E委員	DXは、確かに窓口業務の効率化は進めていくべきと賛成しております。自治会の定例会等で、ZoomやLINEを使うことに抵抗感のある年配の方はかなりいます。その中には、携帯電話は持っているけどパソコンは持っていないので、図書館で検索する方もいます。おそらくDXが推進される過渡期であり、どんどん進み、取り残される方が心配です。他の自治会や地方などでは、どういった取組が進んでいるのかを調べると、福祉に関して見守りなどでは利用されてる自治体もあるようです。パソコンなどが使えない人に対して、教える体制が進んでいる自治体もあるようです。パソコンなどを使えない人を取り残さない取組は必要で、身近な人たちを見ていると心配になります。DXが進めば、今まで、人の繋がりがであった自治会がなくなっていくのかなという心配があります。
委員長	その他、何かご意見等があれば、挙手をお願いいたします。出尽くしたようですので、今、委員の皆さんから、出していただいた意見等につきましては、講師にお伝えし、もう少し中身をどうするかを詰めていきたいと思います。ではその他に移ります。事務局から発言はございますか。
事務局	シンポジウムの開催日は、11月7日又は14日を考えております。1人でも多くの委員の方々にシンポジウムにご参加いただき、そのあとの委員会にもご出席いただければと考えております。後日、調整させていただきますので、よろしくお願いします。
委員長	次回の開催日程につきましては、事務局からの説明どおり、シンポジウム終了後となりますのでよろしくお願いいたします。 それでは、本日の委員会はこれで閉会いたします。 お疲れ様でした。

順に、A委員、B委員、C委員・・・と表記しています(委員長、副委員長を除きます)。